

時代	弥生時代	遺跡	東船遺跡 ^{ひがしふね} (隠岐の島町)
弥生時代のくらし ～米を作る生活～			
中国大陸や朝鮮半島から米作りが伝わると、人々の生活は縄文時代の狩猟採集の生活から、稲作を基盤とする生活へと変化していきました。			



図1 復元された竪穴住居(田和山遺跡 松江市)

弥生時代になると、人々は米を作るのに適した場所に村をつくり、生活するようになりました。住居には、地面を円形や方形に掘り込み、数本の柱を立て、屋根に茅を葺いた「竪穴住居」を使いました。竪穴住居の中には、調理や暖房のための炉もしつらえてありました。

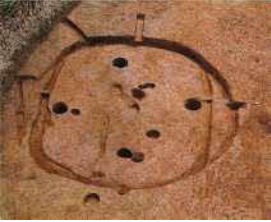


図2 完掘した建物跡(東船遺跡 隠岐の島町)

深い4つ穴は、柱を立てた穴です。4本の柱で立てられた家であることがわかります。2本で立てる場合、5本で立てる場合など色々あります。掘りくぼめた穴の輪郭に沿って浅い溝があります。これは掘り込んだ地面が内側へ崩れるのを防ぐため、板をはめた溝です。中央に浅い穴がありますが、これは炉のあとです。



図3 弥生土器(東船遺跡)

屋内の炉は、暖房施設でもあり、調理場でもありました。煮炊きには土器が使われました。図3は、図2の竪穴住居跡から出土した土器ですが、左右の二つの大きい土器には外側に「すす」が付いているため、煮炊きに使われたと推測されます。手前の小さい土器は料理を盛るために使われていたようです。



図4 石包丁(西川津遺跡 松江市)



図5 田下駄(庵寺遺跡 大田市)

石包丁はイヌイトの使っていた鉄製の包丁に似ていたのでこの名前が付けましたが、研究が進むと、稲穂を摘み取るための道具であることが判りました。

側面の穴に紐を通し、指に引っかけて使ったものと考えられています。当時の稲は実の成熟度合にバラ付きがあったので、成熟した稲穂だけ選んで刈り取っていたと考えられています。

田をおこすための鍬や鋤は、弥生時代は木製でした。それが、後に鉄製に変わっていましたが、形は今のスコップとほとんど変わっていません。

田植えなどの水田作業をする際の農具としては、田下駄やそりなどが使われ、田下駄はぬかるんだ水田の上を歩くのに使われました。

出典：解説…(図2,3)『隠岐に召すま3』 2002 埋蔵文化財調査センター (図4)『いにしへの島根ガイドブック4巻』 1996 埋蔵文化財調査センター (図1,5)島根県埋蔵文化財調査センター
ワーク…(復元図)『隠岐に召すま』1999 埋蔵文化財調査センター

～弥生時代のくらし～

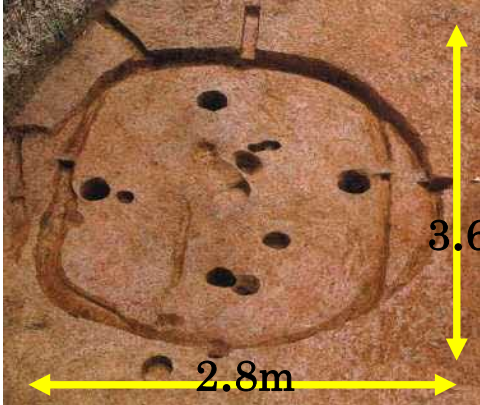
年 組 名前

弥生時代になると、人々は米作りをおこなうようになります。発掘調査で見つかった家のあとや米作りなどに使う道具を見てみましょう。

challenge

- ① 右の写真は弥生時代の家のあとです。その下の絵は弥生時代の家を復元したものです。
- 私たちが住んでいる家と、どんなところがちがうか考えてみましょう。

弥生時代の家のあと(東船遺跡)



東船遺跡は隠岐の島町にあるよ。

- ② 下の写真は弥生時代の米作りなどに使われた道具です。
- どんなことに使ったのか考えてみましょう。



- ③ 弥生時代のくらしについて、さらにくわしく調べてみましょう。